

一般助成(障がいを持つ子どもたちや孤立する高齢者に対する支援)

「障害児と高齢者のアートを通じての交流活動」事業

アートに関心を持つ障がい児と孤立しがちな高齢者が 芸術活動を通じて交流することで共生社会を目指す

「多様性」という言葉が多く発せられているが、日本では多様な人材が持つ可能性を認め合う真の理解は進んでいるとは思えない。人の心を動かす力があるアートを通して、障がいを持つ子どもたちと孤立しやすい高齢者が交流することで、一人一人が喜びを感じながら生きられる共生社会を目指す取り組みを続けている。



アートに関心を持つ児童と高齢者が造形や絵の制作などアートを通じて交流



障がい児と高齢者がアートを通じて 共に生きる喜びを感じ合える試み

「障害児と高齢者のアートを通じての交流活動事業実行委員会」を主管するNPO法人「国際教育情報交流協会」は、2008年以降、タイ、韓国、ミャンマー、ラオス、フィリピンなどアジア地域の子どもたちとの「こどもの絵の国際交流事業」を通じて、障がい児との交流にも深く関わってきた。平和な世界づくりに貢献するために、子どもの絵展、造形活動指導などを通じて相互理解を深め、多様性を尊重した前例にこだわらない取り組みを行ってきた。この経験を活かし、内外で教育学の研究・実践に取り組んできた仙波克也広島大学名誉教授を委員長とする同委員会を組織し、アートを通じての障がい児と高齢者との交流により、それぞれの生きがいや社会性の向上に努める活動を行うことになった。

近年、「特別支援教育」などの充実が図られつつあるが、未だ途上で、定められた小さな域内教育に留まっており、他地域や高齢者層との交流や共生を学ばなければならぬと指摘されている。また、少子高齢化が進み、孤立する高齢者が年々増加するなか、こうした人々に対する様々なアプローチが強く要望されている。

アートに強い関心を持つ障がい児と、子どもたちと接することでエネルギーを得られる高齢者がアートを通じて交流することで、共に生きる喜びを感じてもらい、分け隔てのない共生社会を目指すことを目的に、同委員会では、造形や絵画指導、ワークショップ、展覧会などを実施することとした。長期化するコロナ禍の影響で、高齢者施設での活動はできなかったが、都内特別支援学級などの協力で想定以上の事業活動が実施できた。

コロナ禍という厳しい状況下でも 600点にのぼる作品を制作・収集

実質的な活動としては、東京都葛飾区立こすげ小学校若草学級、八王子市立第五小学校みどり学級、元八王子小学校くわのは学級、いづみの森義務教育学校6組前期の4校の特別支援学級、熱海ひかり、はな花(大阪府八尾)の2カ所の放課後等デイサービス、日本基督教団亀戸教会、NPO法人レクタス金沢教室の2団体で、造形や絵の制作(共同制作を含む)を行い、また、こすげ小学校、亀戸教会ではワークショップを実施した。その活動を通して、総制作作品数は600点にのぼった。さらに、2022年3月には東京・四谷のギャラリーで260点の作品を展示する総合展覧会をしたほか、障がい児や高齢者の作品を掲載した画集とDVDを製作し、参加者全員に無

料で配布した。

「今回の事業に賛同してくれていた高齢者施設3団体が、残念ながらコロナ感染拡大の影響で辞退されました。そのような状況の中で、最終的に8団体との交流が実現でき、想定以上の600点の作品を収集することができました。絵の制作だけでなく、障がい児や高齢者との直接のふれ合いに手を挙げてくれた葛飾区立こすげ小学校、亀戸教会とは特に印象深い交流が実現できました。こすげ小学校では約2か月間に9回のワークショップが実施できたほか、亀戸教会では参加した高齢者から「久しぶりに笑えた」「子どもの新たな発見ができた」「作品が手元に残って嬉しい」といった喜びの声が寄せられ、校長先生や牧師さんから来年も実施してほしいと強く要望されました」と、関係者は事業を振り返って話してくれた。



小学校などでワークショップを開催し、制作した作品は四谷のギャラリーで展示した



助成団体: 障害児と高齢者のアートを通じての交流活動事業実行委員会



コロナ禍の中、障がい児と高齢者の直接交流も実現できました

このたびは私どもの事業に助成していただき感謝申し上げます。おかげさまで、障がい児と高齢者のアートを通じての展覧会を無事に終えることができました。地道な活動ではありますが、社会的弱者へ笑顔や喜びを与え続ける活動にこれからも頑張っていく所存です。引き続きのご支援をお願いできれば幸いです。

障害児と高齢者のアートを通じての交流活動事業実行委員会
実行委員長 仙波 克也さん